

## 平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	尾道市立栗原小学校		
学校長氏名	小田原 まゆみ	栄養教諭氏名	浜岡 敏子
職員数	39名	児童・生徒数	580名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は、学校給食単独調理方式（市内統一献立）の実施校である。平成26年度より栄養教諭配置校となり取組を進めている。昨年度からの課題としては、家庭と学校との協力体制づくり、組織的な個別相談指導・校内研修・体力づくりとしての具体的な取組の実施がある。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

「健康の保持増進につながる食生活の在り方を学び、自らの生活に生かすことのできる子供の育成」

- ◆望ましい食習慣を身につける
- ◆健康と食生活の関わりを理解し、健康を考えた食べ方ができる
- ◆自然の恵みや作る人たちへの感謝の気持ちを持つことができる

（成果指標・目標値）

成果指標；給食の残菜率・目標値；2%以下の日を85%以上

県の成果指標		目標値 (%)
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	62
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	75
3	地場産物を知っているか（未回答率）	5
4	郷土料理を知っているか（未回答率）	12

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 児童の主体的活動を取り入れた給食時間における食に関する指導

（1）給食指導の具体的な指導方法について、全教職員で共通認識をもち、取組を進めた。

- ・学校全体で統一感をもった給食指導ができるよう、給食時間の配分及びもぐもぐタイムの設定や指導内容の確認及び掲示資料を用い、指導の徹底を図った。（掲示資料の内容；給食時間の配分・給食当番の身仕度・手洗いの仕方・配膳・食事の姿勢と食べ方・片付け方等）
- ・もぐもぐタイムの過ごし方についての指導を行った。  
（給食時・担任と栄養教諭のTT指導・全学級）

題材「よくかんで食べることの大切さを知り、食べ方を見直そう」



給食時間における指導

（2）児童の主体的活動を取り入れた給食時間の食に関する指導を行う。

- ・学級の係に「給食係」を設け、①食事環境を整えることや②（1）の指導資料を黒板に掲示すること、③食事開始後に「献立紹介」を行うことを日常の仕事とした。給食の月目標を呼びかけたり、食に関連したクイズを出したり、児童が考えた活動に発展していく姿も見られた。



献立紹介（献立名と赤・黄・緑の食品）

**【取組2】(テーマ) 児童の食に関する自己管理能力の向上を図る。**

(1) 教科等における食に関する指導で学んだことが保護者に伝わり、家庭生活での実践につながるようワークシートや食育だより・通信等を活用し、取組を行った。

各学年の教科等における食に関する指導
1年 学級活動:「やさいとなかよしくなろう」他
2年 学級活動:「めざせ!元気うんち」
3年 学級活動:「食べ物の働きを知り, 食べ方を考えよう」 社会科:「農家のしごと」との関連 生産者を招いて給食時間における指導
4年 学級活動:「バランスよく食べよう」
5年 家庭科:「はじめてみようクッキング」他
6年 家庭科:「いためてみよう朝食のおかず」他

尾道市「健やかフェスタ」への作品応募
6年対象(全員);「みんなの朝ご飯」 朝ご飯1食分の献立を考案(地場産物を使用)。調理し, 写真を添付して応募。
5年対象(全員);「標語」
4年対象(全員);「健康ポスター」



1年 学級活動



3年 給食時間における指導(地元の生産者を招いて)

**【取組3】(テーマ) 栗原しぐさで気持ちのよい食事の場づくりができる児童を育てる。**

(1) 低学年と高学年のペア学級を設定し、交流給食を行う。

- ・ランチルームと教室(高学年)を使って、ねらいと高学年及び低学年の役割を明確にした交流給食を行った。会食の場の進行や楽しむための工夫は、係活動で行い、給食委員が中心となり給食係と一緒に進める形をとった。班ごとに自己紹介、話題を出して会話することから、人と関わる楽しさや喜びの体験ができた。意欲的に取り組む児童の姿や高学年がリードして外遊びを一緒に計画する学級もあった。



高学年がリード役! 自己紹介・話題・食事のマナー

(2) 給食委員会で給食調べ(毎月)を行い、全校に呼びかける活動を行った。

- ・「給食のきまり」について毎月1項目を決めて、きまりを守る呼びかけと状況を調べる活動を行った。各委員が担当する学級を持ち、結果についてのお知らせや呼びかけを行った。

#### 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

##### (1) 職員研修の実施

- ・ねらいや方法の確認及び調理実習を行い、感想を出し合った。

##### (2) 家庭への情報発信

- ・県教委や市教委からの配布物及び食育だよりを家庭に配布した。

##### (3) 家庭・地域への働きかけ

- ・栗原小PTAバザーにおいて、試食の提供とレシピを配布した。

##### (4) 「おうちで作って食べよう！」の呼びかけ

- ・給食委員会で学級ごとの食数調査を行い、全校に呼びかけた。



#### 5 取組に対する成果と課題

##### 【成果】

- (1) 給食時間における統一感ある給食指導に学校全体で取り組み、給食時間の過ごし方について、時間配分・食べ方・片付け方等の「給食のきまり」を守った日常活動として定着してきており、好き嫌いなく、残さず、きれいに、感謝して食べる児童の姿につながっている。
- (2) 児童の主体的な活動を育むための環境づくり（係活動・交流給食等）を進めることができた。
- (3) 校内の「家庭での健康づくり等に関する実態調査（保護者対象）」結果において、家庭での取組内容として「栄養のバランスに気をつける」「朝食を食べさせる」といった項目の数値が上がり、食に対する意識の高まりが見られた。

##### (成果指標・目標値に対する結果)

成果指標；給食の残菜率 目標値；2%以下の日を85%以上 【4～2月までの結果】毎月達成

県の成果指標		H28 目標値 (%)	本校（6年対象）	
			H28	H27
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	62	75	64
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	75	73	77
3	地場産物を知っているか（未回答率）	5	9	0
4	郷土料理を知っているか（未回答率）	12	10	9

##### 【課題】

- (1) 児童の実態を明らかにし、全体計画・指導計画を見直し、組織的・計画的・系統的な指導とする。
- (2) 給食時間における指導や教科等における食に関する指導で学んだことが家庭生活での実践に結びつくよう、家庭との連携を図る。
- (3) 児童に課題意識を持たせ、食に対する意識の向上を図ると共に、主体的・自治的な活動ができるよう育む。

#### 6 今後の取組に向けた改善方策について

- (1) 取組について、事前の連携・事後の反省・評価を行い、職員の共通認識を持つための研修を行う。
- (2) 学校と家庭との連携が進むよう取組を検討する。（生活習慣を定着させる取組内容・養護教諭と連携した個別相談指導・参観授業の実施・PTA親子料理教室の企画等）。
- (3) 教科等における食に関する指導にねらいを明確にした体験的な活動（調理等）を取り入れる。